えてください。

6年には高度化、

多様化するマ

した。この賞を創設した目的を教作品募集が8月1日から始まりま

「JTB交流文化賞」の

化を図る継続的な活動だ。

持続可能なものとして創り

う意義がある。

によって掘り起こした観光資源を

ドメインを総合旅行業から

一交流 事業

海道から沖縄まで地域密着を掲げ

少子高齢化社会の進展、

地域経済

がら発展することを志向して、

へ対応し、地域に正対しな

合致しています。

髙橋 現在、

地域においては

り組みは、まさにこれらの国策と

方創生」に力を入れています。

国は「観光立国の推進」と

Bグループによる交流拡大の取

た分社化を行った。

そのような流れの中、地域に根

を拡大し、地域活性化することで おり、観光振興によって交流人口 の低迷など深刻な問題が存在し

対処していこうという取り組みが

JTBグル

メント・カンパニー)戦略を進め(デスティネーション・マネージ

ている。私たちが目指すDMCモ

らの集客を促す」ことで地域活性

てして、「日本全国、世界各国「眠っている宝に磨きをかけ」

「地域資源の魅力を再発見し」、別に「北ま()、 ルは、地域の方々と一緒になり 指している。交流文化事業の推進解決にまでつなげていくことを目

バーとして、

D M C

個人対象)を創設した。交流文体対象)と交流文化体験賞(一

賞の大きな特徴は、まだ完成され

光立国に向けたさまざまな施策も

地域の価値をデザインしながらさ

いる限界集落の存続や空き家

に周辺都市、住民が協力しな

らがら

活用して解決することを目指して

交流の「旅の力」

を

いる。地域固有の資源を活用

観光庁設立など国、行政による観降、観光立国推進基本法の制定、

泉首相が観光立国を提唱して以

注目されている。

03年に当時のも

つさまざまな課題を文化、経済、の人々の交流を創造し、地域が持

人々の交流を創造し、

旅行事業を通じて国内外

年にJTB交流文化賞(組織・

に寄与することを目的として、

流を生み出し、地域や社会課題の

地域の魅力の創出、地域の活性化 ざした持続的な交流の創造と、

力」を活用してあらゆる場所で交 培ってきた「人と人を結びつける 業へ進化させた。旅行業を通じて を創造し、促進する」交流文化事

ll回「JTB交流文化賞」 募集開

小原ECOプロジェクト

住民1人の限界集落

第3種郵便物認可

福井県勝山市の山村で、住民2人(応募時) の限界集落である小原地区の取り組みが、第10 回JTB交流文化賞(組織・団体対象)で最優 秀賞を受賞した。地元大学、国内外のNPOと の連携や各種交付金などの活用により、小原集 業遺産などとリンクしながら、農家民宿を核と したエコツーリズムやジオツーリズムの提供の 場所として、交流人口年間1200人を目標に掲げ 毎年活動を行っている。これまでに古民家7棟 を再生させ、エコツアーの基地や、農家民宿 カフェとして活用している。



ついて紹介している。 リティを生かした「芸

の創造、地域活性化

2創造、地域活性化、双方向の文化交流など、オリジナこれまで受賞した34地域の、固有の魅力の創出・需要

持続可能な交流」

の取り組み事例に

冊子「持続的な交流を創造する地域を訪ねて」

原ECOプロジェクト

農家民宿を核に活動



受賞地域

の

取り組み紹介

髙橋

産業主体、 の「地域マ る。DMC戦略のプロセスとして、 それぞれが連動する形で交流を生 み出していく取り組みを行って それに関わる人材育成などを行う 画、情報発信による需要喚起など 掘、磨き上げを行う。 まずは眠って 社員一人一人が地域に入り、 るまちづくりコンテンツの開発や 元の人だけではなかなか難しく 「地域マネジメント事業」を行 観光事業者、行政、 迎え入れる着地では魅力あ 市民の方々と協力し、 -ケティング事業」 私たちのような外部 いる地域の宝の発 N P O ばか者」 地域 を

高橋 JTBでは、地域の特性を生かしてまちを活性化している地域を実際に訪れ、地域活性化のヒントを探る「地恵のたび」という商品がある。例えば、高い技術力で世界の注目を集めており、第7回の交流文化賞優秀賞を受賞した大阪府東大阪市では、国内を代た大阪府東大阪市では、国内を代た大阪府東大阪市では、国内を代表するモノづくりの心とこだわりを体感していただける場をお客さまに提していただける場をお客さまに提していただける場をお客さまに提供している。また、第8回の最優

可能な観光」を応 広行社長

まざまな手法により「ヒト」 「モノ」の交流を促進させている。 お客さまを送り出す発地ではマ トニーズをとらえた商品企

を感じさせる。今後の可能性があきるのだという、未来への可能性も関わらず、これだけのことがで なったのはまさにその趣旨に なったのはまさにその趣旨に合っECOプロジェクトが最優秀賞に が交流文化賞の理念であり、 る地域の取り組みを支援すること

交流文化賞は単に成果を

しているのですか。 具体的には受賞地域をどう応援

てほしい。取り組みを進化させて、るのではなくて、繰り返し応募し 応援する賞だ。 何度目かの応募で受賞された地域 **受賞できなかったからとあきらめ** はなくても、現在進化中で頑張っ 表彰する賞ではなくて、 だきたい。また、一度応募している取り組みをぜひ応募してい 組んでいることのプロセスをする賞ではなくて、継続的に また、 完成されたもので 度応募して

心募がありました。 び掛けを。

前回は組織団体部門に61作品の 今年の応募の

取り組んでいるのだが、住民がた

へという極限の限界集落に

る「持続可能な観光」を応援するていないが今後発展の可能性のあ ざまな人、組織が連携している取 や地域活性化への波及や貢献が見 賞だということだ。 の独自性が生かされており、 組みをこれまで10年間にわたり トではなく、持続的な観光振興 地域資源の活用など地域 表彰 一過性のイ さま

と位置付けているが、具体的に地域をどう応援していくの組織・団体部門を「持続可能な観光地づくりを応援する賞」

か。髙橋広行社長に聞いた。

流文化賞・ジュニア体験部門」

の3部門がある。

小中学生対象の「交

した「交流文化賞・個人体験部門」

た「交流文化賞・組織団体部門」と一般の旅行者を対象と

地域(観光地)の組織・団体を対象とし 「JTB交流文化賞」の作品募集を8月

日に開始した。

口の拡大に役立っていきたい りなども含めた、観光を基軸とし た地域経済の活性化による交流人 の流れと連動しながらDMCを進 DMCによる交流人口の拡大と 地域づくりや商店街づく

っているのでしょうか。は、具体的にどういったことを行

秀賞を受賞しました。受賞のポイ ントは何でしょうか。 ほら) ECOプロジェクトが 前回は福井県勝山市の小原 古民家を修復した農家民宿 小原ECOプロジェ

により今大きな社会問題となっていての今大きな社会問題となって地形などを資源とした多様なエコ 民らと農村文化、動植物の生態系、を交流拠点に、地元大学、周辺住 きたいと考えている。 父流文化賞10 **賃地域に対してさらに推進してい** ·Bが持つノウハウによって受そのような商品作りなどを、

受賞地域の取り組みを一般のお客 よな媒体などを通じて発信して 俊も受賞地域の取り組みをさまざ の地域を訪ねて」を発行。 貞地域の取り組みと今を伝えるた さまに知ってもらうためのプロモ ションも必要だ。 品化による送客だけではなく、また、地域の活性化のためには、 「持続的な交流を創造す D周年を記念して、受必要だ。今年の1月に

とらえられている。 携による「観光立国」「地方創生」 の取り組みがますます加速して 口の拡大は、 地方創生」 民の連携による観光立国実現へ いる。さらに安倍内閣では

推進されてきた。14年には訪日外 観光振興による交流 その主要な解決策と を重要政策として掲 人になり、 官民の連

お客さまへ価値の高い「旅」 化を行う。そして商品を情報発信リーを生かした魅力的な旅行商品 標としている。そのために、 客により双方向の交流人口を 口の増大を図って いう一気通貫の取り組みに ハイブリッド型旅行会社を目 最適なチャネルで販売 大を図っていく。送客と集、観光を基軸とした交流人まへ価値の高い「旅」を提

本全国に配置している。 ビジネスのエキスパー 「観光開発プロデューサー」 トである、

その地域に根ざしたフ により 域にある価値を利用するだけでな く新たに創造する。これ sうな旅作りはまさにDMCとし 取り組むべき大きな仕事だ。

言える生活文化を見に行く。そのはなくて、そこにある文化財とも 観光地に行こうというツアーで 展覧会とその「語り部」と触れ を実施している。

持続的な交流を 創造する 地域を訪ねて

TIP ITB交流文化賞 募集中

募していただきたい。
えているので、この機会にぜひ応的にフォローをしていきたいと考的にフォローをしていきたいと考

もある。

応募締め切り

JTB交流文化賞は、地域に根ざした持続的な交流の創造と各地域の魅力の創出、 地域の活性化に寄与することを目的として、2005年に創設され、毎年開催しています。 第11回を迎えた今回も各地における観光振興に対する斬新な取り組みや、 実際に体験した交流文化の事例を募集・選定・表彰するとともに、

受賞地域を様々なかたちでバックアップして参ります。

多くの皆様のご応募を心よりお待ち申し上げております。





交流文化賞組織·団体部門

JTBは、地域の観光交流・地域活性化の取り組みを 支援・推進いたします。

「わが"まち"に誇りを持つために」

地域活性化の活動は、従来から地域に生き続けている自然 名称 や文化、歴史などの価値を損なうことなく、地域が持つ豊 対象 富な知恵や特性を存分に活かしたアイデアを盛り込むこと が重要です。等身大のまちの姿をありのままに伝えながら、 まち全体でもてなす工夫を見つけた時、旅行者に新鮮な感 動を与えられ、地域の皆様はわが"まち"に誇りを感じられ ることでしょう。そんな地域の取り組みを教えてください。

募集内容

交流文化賞 組織・団体部門 組織·団体

国内外を問わず、地域として、 地域固有の魅力の創出・需要の創造、地域活性化、 双方向の文化交流など、オリジナリティを活かした 「持続可能な観光」の取り組み事例を募集します。 ※前回応募いただいた取り組み事例も応募いただけます。 但し、過去に受賞された取り組み事例は対象外です。

応募様式 指定の応募用紙

2作 賞金50万円

最優秀賞 1作 賞金100万円

旅の体験記を 募集

旅で発見!

旅で感動!

交流文化賞 般体験部門

交流文化賞

目で見るだけでは物足りない。五感で感じて触れあった旅の体験ほど、 心に深く刻まれて人生での大きな糧となるでしょう。著名な観光地を訪 れるだけではなく、自らが見つけて、知って、交流するという能動的な 旅のスタイル。交流文化賞体験部門では、旅を楽しむあなたの、人と人 とのつながりやふれ合いから生まれたエピソードを募集しています。

募集内容、応募要項など詳しくはホームページをご覧ください。

第11回 JTB交流文化賞 選考委員

消費が重要になってくるわけだ光は物見遊山でなく、体験「コト」







(株)ジェイテ*-*常務取締役



郵送またはインターネット*で ご応募いただけます。 詳しくはホームページをご覧ください。 ※交流文化賞 ジュニア体験部門は郵送のみ受付

JTB交流文化賞



感動のそばに、いつも。